大崎短歌会

兼題『雨・あめ』

雨あがりくちなしの白冴え渡る
　仄かな香り花際立ちて　井元かず子

雨止みし瞬時を急ぎ菜園へ
　菊苗植えてホッと一息　穂園芳江

戦とはほど遠き色濃紫陽花
　雨に濡れつつ木戸にこぼるる　山下征海

空と峰別かつ一線潰されて
　雨立ちらしき子の住む辺り　本後淑子

風はたと止みてしずけき夕庭に
　雨かと思ひ天を見上げる　実吉安仁

雨降れば蛇の目でお迎えなんて歌
「蛇の目ってなあに」と言いさうですね　原田葉子

梅雨明けるあっという間の梅雨明けに
　さし芽の菊もうなだれており　坂元つる子

島津雨心定めて立つ朝
　真一文字の口唇清しく　馬場みさ

薩摩郷句

兼題『うんだも』

十八歳で　うんだもしたん　子供が二人
　（唱）子供が子供むば　連れっ歩りちょっ　満石うらら

何ゆ聞てん　うんだもで済ん　婆ん返答
　（唱）理解っちょっとか　張り合いも無し　遠矢耐多

茶を出せば　うんだも焼酎が　良ち吐えっ
　（唱）お茶も勿体無て　厚かまし奴　二見愚楽満

うんだもち　家族中がっかい　通信簿
　（唱）塾きも行たちょっ　どしたこっかよ　北村虎王

家族中で騒動　うんだもコロナ　貰っ来っ
　（唱）濃厚接触き　出も入もならじ　諸木美舟

鼻ねピアス　うんだも青年は　化粧もしっ
　（唱）流行じゃったろ　丁度女　諸木小春

銃砲で射っ　うんだもしたん　恐じ日本
　（唱）日本じゃいかち　耳ぬ疑ごっ　西ノ園ひらり

うんだもう　菜園畑も　日射病
　（唱）水が欲し言う　胡瓜やら茄子っ　藤元鬼瓦

うんだもう　今朝は薬ゆば　飲んだけな
　（唱）わからんとなち　息子かい叱られっ　長重リリー

うんだもう　またまた増ゆい　憎きコロナ
　（唱）何時ずい続っか　厄介けなコロナ　上窪小絵

うんだもう　金髪ち女装で　帰郷い孫
　（唱）孫が女ごい　なったち大騒動　上村牛歩